



このレポートは、私・和仁が毎月のコンサルティング活動や日常生活を通して気づき、学ばせて頂いたことを書き留めたものです。
お気軽にご笑読頂ければ幸いです。

【今月の気づき】



『“いつでもメールチェック” を止めてみる。』

モバイル機器の進化は目覚ましいものがありますね。わたしの周りには、ケータイやパソコンで出先でもメールチェックしている人はたくさんいます。一見、これは便利に見えます。オフィスに戻らず大切なメールをチェックして、場所と時間を問わず、すばやく返信できるからです。さて、ではそれは本当に「望む状態」をもたらしているのでしょうか？

実はわたしも2年前までは、自分宛てのメールを携帯に転送させ、出先からチェックするようにしていました。しかしそれによって弊害もありました。

- 例) 気分転換しようとして連休をつかっただけの旅行中に、感情がかき乱されるメールを目撃。せっかくの旅行中、せわしない気分で過ごした。(返信は入社してからで問題なかった)
- 例) 家族で出かけている狭間に、メールチェック。それを目にした家族から、「休みなのに休みの気がしない」とクレームが。
- 例) 非日常で大胆な発想をしたいときに、メールチェックすることで日常発想に逆戻り。

気がつく、「ちょっとした間ができれば、すぐにメールチェックしないと気が済まない」状態になっていたのです。「マズイ!これは、メール中毒だな」と反省し、ある日決断しました。「1週間だけメールのケータイへの転送を解除しよう」と。

その結果、どうなったと思いますか? そう、何も問題は起こりませんでした。考えてみれば、1日1回以上オフィスでメールチェックしています。出張時は2日ぐらいメールチェックができないこともありますが、よほどの急ぎなら携帯に連絡が入ります。

そのとき、気がついたのです。「**できる**」がいつの間にか「**せねばならない**」にすり変わっていたと。「いつでもどこでもメールチェックせねばならない」状況をいつの間にかつくりだしていたのです。現実には、「**できる**」けど「**やらない**」という**選択もアリ**です。そんな2年間のケータイでのメールチェック禁止期間のおかげで、いまではメールとの快適なつきあい方がわかってきた感じがします。最近、iPadの購入をきっかけに出先でメール受信できる状態をつくりましたが、今なら「必要に応じてチェックしたりしなかったり」がコントロールできる感じがします。「いつでもメールチェック」中毒になっていませんか？

【今月の一冊から】

『やりたいことに再度、フォーカスする。』

>やりたいことをやるとはどういうことか説明しよう。
>たとえるならそれは、仕事の日の朝は、目が覚めたと同時に、ベッドからパッと飛び起き
>てしまうって感じだ。だって、自分がこの世で一番やりたいことについて話したり、実行
>する最高にワクワクする一日が始まるんだから、自然とそうなっちゃう。
>そうになると、もう休暇が待ち遠しいなんてことは起こらない。なぜなら、仕事をするこ
>とが遊びとなり、それでリラックスできるのだから、休暇をとるなんて必要なくなるんだ。
>そして、どれだけの時間働いたかなんて気にすることもなくなる。従来の仕事の概念とは、
>まったく異なるものなんだ。確かにそれでお金を稼ぐわけだけれど、たとえお金をもらえ
>なくても、喜んでそれをやりたいって思う。
>という感じなんだけど、わかったかな？

（『ゲイリーの稼ぎ方』 ゲイリー・ヴェイナチャック 著
フォレスト出版 P.21 より引用）

やりたいことにフォーカスしていますか？

わたしは12年前に独立した最大の理由は、「自分がやりたいスタイルのコンサルティングを追求して実践したい！」というものでした。

そして、それを日々のコンサルティングの現場で追い求めた結果、体系化できた考え方がセミナーや教材、本という形となり、多くの方々にお届けできるようになりました。

すると、慣れとは怖いもので、その恵まれた状態が当たり前になってしまうことがあります。たとえば、本を執筆して出版し、より多くの人たちに読んでもらうことは大好きなことの1つ。そして、そのプロセスの1つに「原稿の校正作業」があります。

編集者と著者のキャッチボールでより良い作品に仕上げていくわけですが、やる作業は日本語でしゃべる書き手と英語でしゃべる編集者の戦いみたいなどころがあります。書き手の意図が伝わらず、編集者の意向で文章表現がまったく変わってしまっているのを何度も目にする。それを再び戻し、「なぜ、こう表現しているのか」その意図を伝える。その繰り返し。

「う～ん、なんて地道な仕事だ～」と思わず弱音を吐いたのを聞いた妻のひと言は、わたしの目線を切りかえてくれました。

「でも、本づくりっていう最高にクリエイティブな仕事じゃない」

はっ、そうだった。目の前の細々した地道な校正作業は、内にある考えを世に問うという、最高にクリエイティブなプロジェクトの中の1つ。やりたいことのまっただ中なのに、いつの間にかそれが見えていなかった。フォーカスが「うんざりすること」に向いていた。でも、やりたいことに再度、フォーカスすることで、目の前の仕事が違うものに見えてきた。立ち止まって、やりたいことに、フォーカスしましょう。